



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報 第34号 2012年12月

NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

主内容: ネパールを渡る(様々なネパールの移動手段)/定例活動報告/国際障がい者の日を祝う/ラルパテの会のご紹介/ザ・シェルパ/知ろうネパールの国旗/ネパールの詩/今年はへび年/日本の事務局からお知らせ

行く、来る、進む、戻る、帰る、出る、入る、ネパール民族大移動その

前号の表紙「ジャガイモを掘る女たち」が大好評。今月号も写真家の長谷川尚司氏にご協力いただきました。今月から始まるシリーズ:「ネパールを移動する」は人や動物が様々な形態で移動する姿を写したものです。

「内陸に閉じ込められた海水」標高 4000メートルの地に塩がある。今では岩塩を運ぶキャラバンの姿が見られなくなったが、世界中の人がヒマラヤを渡る。人々の飢えを癒すコメと水分を補強するのは、多大な動物と荷を担ぐ人間。さて、何をどこにどうやって運ぶのか見てみよう。



左:お客の荷物、テントや寝袋を背負うシェルパたち。これが基本。:大型荷物を運ぶ時は、荷を高いところに乗せてからよいしょ!



ウマやラバが運んでいるのは何かな?
これはプロパンガスのボンベです。でも山で食べるマキのごはんが一番美味しいね。



ヤギ、ウマ、羊、と一緒に帰ってきた。
お~いみんな戻ったぞー。やっぱり我が家が一番だ。
高級ホテルに負けないぞ!

1NBSA現地活動報告 2012年8月～12月

8月の定例活動

オーディオライブラリ事業

先日ご紹介したNBSA事務所に来た、やさしいお姉さんが不意に来なくなりました。原因はお父さんが重い病気にかかり、看病するためだそうです。このあたりの親族関係 親族愛と言うのはすごいですね。ネパールは家族内で交代とか代替がきかないのです。でも一般の会社でも、簡単に看病休暇がもらえる。うらやましいかぎりですね。本の音訳者に今のところ困ることはないようです。

点字情報誌タッチ

31号完成。早速郵便局に持ち込みました。前年度はプリンタの故障、点字タイピストの不足などで大変苦労しましたが、このところボランティア長のニルマルがかなり熱心に働いているので、今年こそは目標の年間6回の出版が可能になるかもしれません。

その他の事業

役員の多くが、全国障がい者連盟の総会に出席しました。毎年なぜかこの総会はけんか沙汰になりますが、今年は比較的穏やか閉幕したようです。日本でも同じような経過があったと思いますが、ネパールではこうした運動の過渡期を迎えたようです。

雨がひどくて、ガイジャトラ延期

昨年かなり盛り上がった物まね大会のガイジャトラ。今年は大雨になり中止となりました。1年に一度の楽しい事業だったので、少々がっかり。しかし、こどもの日クイズ大会の準備開始。

9月の定例活動

オーディオライブラリ事業

大型連休を前に、ボランティアさんたちがかなり奮闘したようです。学習用の教材を中心に2ヶ月間で9冊の本の音訳を(書物を音声に翻訳する作業)完成させました。学習教材のほかに様々な恋愛小説など、軽い読み物も音訳しました。連休前には大勢の利用者が事務所にいらっやいます。

点字情報誌タッチ

32号の編集の最中です。次号のネタを集め、点字への翻訳。最終チェックなど。

その他の事業

9月14 恒例の子供の日クイズ大会をカトマンドゥで開催しました。本来子供の日は毎年9月15日に祝われるのですが、今年はこの日に大型ゼネスト(バンダ)が予想され、一日繰り上げて行いました。

クイズ大会 スコア (カトマンドゥ盆地内)

- | | | | | | | |
|----|--------------|--------|----|-------|--------|----|
| 1位 | ラボラトリー公立中等学校 | キルティプル | 2位 | サノティミ | 公立寄宿学校 | |
| 3位 | ナムナマチンドラ | 公立中等学校 | 4位 | ドリケル | 公立中等学校 | 以上 |

1 公立中等学校とは英国のスタイル。日本の中学校、高等学校などをさします。プログラムはジャスト 11 時に開始し、定刻通り 12 時 30 分に終了しましたが、一部回答が不正確だと指摘があり、1 位と 2 位の間で大激論が起きました。年 1 度の学校対抗戦。学童たちみんながとても楽しみにしていて、また出場者は真剣に準備をしています。楽しく学ぼうを目指す NBSA ならではのイベントです。準備などいろいろたいへんでしたが無事に終了し、スタッフ一同に感謝しています。主賓には文部省の方をお招きしました。クイズ大会を見てたいへん感激した様子でいらっしゃいました。今後はぜひ盲児の教育に力を注いでいただきたいものです。ボランティア動員数約 15 名。毎度のことながらお疲れ様でした。来年もまたよろしくお願いします。また、例年のように別れ際に、NBSA のクイズ大会をきっかけに仲良くなった学童たちが、交友を深め合う場面があり、また何度も出場しながらついに 1 位になれず、進学する生徒がじっとうなだれている姿が見られます。クイズ大会は裏方さんの準備が案外たいへんですが、毎年何かを学童たちに、そして見学者たちに印象づけるイベントです。来年は NBSA 読者の方々、ぜひ見に来てください。



10 月はネパールの大祭が続きお休みとさせていただきます

11 月の定例活動

オーディオライブラリ事業

大型連休が終わり、ボランティアさんたちが NBSA 事務所に戻ってきました。当然のことながら、連休明けは誰もかれものりがわるい。北風も吹き始めました。と言うことで 3 冊だけ作成。「ディアミシカハ ダルバン」通俗小説。「いそがないヒーロー」アメリカの小説「ガンチャの家」ネパール語の小説以上。

点字情報誌タッチ

タッチ 33 号完成せず。超大型連休が入りました。近日中に完成、と言うことでご容赦ください。

その他の活動：国際障がい者の日と、国際ボランティアの準備と動員。

2012年12月3日 国際障がい者デーを祝う Intern
ational Day of Disabled Persons



国際障がい者デーは1982年12月3日「障がい者に関する世界行動計画」が採択されたことを記念して、行われるようになった国際的事業のひとつです。

障がい者問題への理解促進、障がい者が人間らしい生活を送る権利とその補助の確保を目的とした記念日。私たちも毎年この行事に参加しています。スローガンはちょっと硬いのですが、旧知の友達に会ったり、新しいボランティアさんたちと交流するなど楽しい行事。

カトマンドゥにある肢体不自由児の運動能力改善のリハビリテーションのご案内

私たちは大阪に事務所のあるラルパテの会といいます。ラルパテとは ご存知の方もいらっしゃると思いますがネパール語で ポインセチアの花のことで、冬にネパールを旅すると白いヒマラヤとともにポインセチアの赤い花の色がとても印象に残ります。ポインセチアの赤い花のような熱い心でネパールの子どもたちを支援したいという思いから1996年に創立しました。主に貧困家庭の生徒たちへの就学支援をしていますが2000年からは障がい者への支援も始めました。最初の5年間は編み物や織物などの製作指導をするという形でしたが、2005年から障がい者のためのリハビリ指導を行っています。脳性まひからくる肢体不自由児の運動能力改善のリハビリテーションです。1週間に1回バラジュにあるラルパテセンターへ子どもと保護者がやってきます。そこでヨモギスチームバス、鍼灸、マッサージなどの治療、バランスボール、立位計、おもちゃなどを使った遊戯療法などを行っています。子どもたちの運動能力が伸びることも大切なことですがここへ来る保護者の方たちが一番喜んでいることは、親同士のネットワーク つながりができたことです。ネパールでは子どもが障がいを持って生まれると、その責任は母親にあると思われることが多いようで、多くの母親たちは自責の念に苦しめられています。そのためいつも下を向いて生きているような人も多いのです。しかしセンターへきて同じ立場の母親と話し合い また日本からの専門家からの話を聞いたりして、前向きに生きていく姿勢が出てきたとおっしゃいます。またお互いに理解し、話し合える仲間ができたことをとても喜んでいらっしゃいます。

子どもたちの機能にも大きな改善が見られます。立つこともできなかった児童がゆっくりですが、軽く手を支えてあげるだけで一人で歩けるようになったり、言葉が出るようになったりしています。10年近く見ていると子どもたちのこんな変化が本当にうれしいです。

今年は日本から助産師の派遣を行いました。それはセンターに来ている障がい児のほとんどが産産時のトラブル、生後1年までの高熱によって脳性まひを起こしてしまったことが分かっているからです。実際に障がいを持っている児童のリハビリをしていくことも大切ですが、その入り口となる産産時のトラブルを少しでも減らすことができれば、今のような脳性まひの子どもたちが減ると考えたからです。

実際にネパールへ行ってみると、また多くのことがわかりました。日本の助産師のようなお産の専門家はいません。病院でもナースがそれにあたっています、彼女たちもお産に対する知識はとても乏しいことがわかりました。出産も医師が立ち会わず、あまり能力のない看護助手のような人だけで行っている現場の話も聞きました。ナースたちのワークショップ2日間行いましたが彼女たちの知らないことが多かったようで、まだまだ指導をしていかないといけない分野。

私たちの会は会員が100名足らずで、ほとんどの会費が就学支援に使われるの、障がい者への支援は今までは国際ボランティア貯金からの配分金で行っていましたが、来年からはそれもなくなります。さまざまところからの寄付を仰ぎながら、これからも障がい者への支援は続けていきたいと思っています。

(ラルパテの会 事務局長 大仲ゆかりさん。
投稿ありがとうございました)

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~larupate/>



ネパールよもやま シェルパってどんな人たち？

う～ん、どこかで聞いた名前。シェルパって登山のドキュメンタリーテレビに出てくる男の人かな？
は～い、ほとんど正解。おもに外国人がエベレストなんかの高い山に登るとき、シェルパさんたちが、大きなザックや酸素ボンベを運んでくれます。いわゆる登山家の荷担ぎ。怪力男がわんさかいるし、いつも体を鍛えているようです。

詳しいことは知らない人のほうが多いのですが、ネパールの少数民族のひとつなのです。顔は私たちとよく似ていてひらべたいモンゴロイド。現在の人口は約15万人で、ネパール総人口約の0.5% くらいです。国籍もはほとんどネパールですが、根拠地つまり居住地はネパール東部、エベレスト南麓に面したクンプ地方で、他にインドのダーズリンやシッキムにも住んでいます。国籍なんか屁とも思わん、と言った感じかな？
なにしろ、シェルパが住むところは世界的な観光地が多いのです。もちろんホテルもびっしりある。世界各国からくる登山家、観光客でいつも満杯。

シェルパの人々はどこからきたのでしょうか？

昔からチベット高原の東に住んでいました。17世紀から18世紀にその地を離れ、南に横たわるヒマラヤ山脈を越えて、ネパールに移住してきたとされています。そのころすでに、モンゴル系の人々や中国系の人々が山を越えて南の人々と交易していたそうです。その人たちの荷物を運んだり、道案内をしていたのシェルパ。何せものすごい寒冷地で、農業なんてできなかつたでしょう。

そんな過酷な土地に住む人たちに目つけたのが外国人たちです

20世紀になると欧米人がこぞってヒマラヤ登山にやってきました。その手助けをしたのがシェルパです。

なにせ高地に強い！暑い土地に住んだことのない人々。シェルパたちは登山のテクも習得し、ガイドとしてのテクも身につけました。切磋琢磨！体を鍛えることが好き。山のことを熟知しているなどなど。もうこれ以上ないほど登山に適した人たちはいないでしょう。今では、シェルパなしでは山に登れない、と言われるほど重要な存在になりました。

テンジン・ノルゲイ この人なくしてシェルパは語れず

テンジン・ノルゲイ (Tenzing Norgay, 1914年5月29日? - 1986年5月9日)

エドモンド・ヒラリーとともに1953年5月29日にエベレストの人類初登頂を達成した。

テンジンはなんと日本にも来た事があったそうです。1963年に外務省の招聘により来日。この時は、自分の名の音が日本語の「天神」と同じだと聞いて喜んだという逸話がある。昭和39年2月2日に日本山岳会の招きで来日したことがある。そしてテンジンは1986年、ダーズリンにて死去した。学校の建設や、ガイドの養成に力を尽くし、村の発展にも大きな功績をのこしたと言われています。

ヒマラヤに横たわる大きな問題

シェルパの偉大な活躍で、ヒマラヤ登山は以前よりずっとお手軽になりましたが大きな問題直面しました。それがごみ問題。村には飛行場とヘリ発着場が作られ、登山家が爆発的に増えたのです。登山客が捨てていった酸素ボンベ、食品ごみ。環境破壊からヒマラヤを守るため、近年自然保護団体を組織しています。

ごみのポイ捨て問題はヒマラヤだけではなく、動物の宝庫チトワンでも、旅行者が捨てるビニール袋で、多くの動物が苦しんでいます。



おさらい編 ネパールの国旗

制定日 1962年12月16日 使用色:青 真紅 白 三角を2段に重ねた珍しい形 これはネパール王国の王家と宰相家が使用していた2つの三角旗を組み合わせ、簡略化したことに由来している。国旗の真紅はネパールの国花であるしゃくなげの色であり、ネパールの国色でもある。また、赤は国民の勇敢さを、縁取りの青は平和を、それぞれ意味している。2つの三角形はヒマラヤの山並みを象るとともに、二大宗教であるヒンドゥー教と仏教を意味しており、月と太陽はこの国が月や太陽と同じように持続し発展するようにという願いが込められている。三角旗という形状や、三日月や太陽のデザインは、ヒンドゥー教の旗としてはよく見られるものである。かつては、月と太陽の中には人の顔が描かれていた。

ネパールの詩

遠い声 ドルガ ラール シュレスタ選詩集 翻訳 藤井正子氏
ただひとつの望み

書くこと 表現すること 行動すること
そんなことは二の次だ
些細なことにこだわり続けたら
いつ その答えがでてくるのか

どうやって器から掬い取るというのだ
もしそこに何もはっていないとしたら
最も鋭い見識は
空っぽの器に何も入っていないと知ること
我々は銅貨にメッキをする愚か者を嗤う
しかし なにもないところに何かを見ることの方が
よほど大それたうぬぼれではないか

私は気分がすぐれず
眼も耳も、何もかもが疲れ果てている
そんな私の たった一つの望みは
喜びも悲しみも 何も無いことを見つめること
それさえできれば それでいいのだ
それでいいのだ

大切なお知らせ

ネパール入国ビザ代金に変更になりました。

同暦年（1月1日から12月31日まで）内初回の入国の場合、以下の通りとなります。

15日間有効 25USドル
30日間有効 40USドル
90日間有効 100USドル





NBSA カトマンドゥ 来年の抱負

カトマンドゥ、現地会長 ビソ アディカリ

日本の皆様のおかげを持ちまして、2012 年も計画していた行事のほとんどをやり遂げることができました。ネパールの政治的不安定はいまだに続いていますが、日本の皆様のほうが大きな災害をなんども経験し頑張っていることと思います。そんな中、私たちの活動をご支援してくださり感謝に耐えられません。2013 年皆様のご多幸をお祈りいたします。

今年最後の会報となりました。次号は 2012 年2月の配布を予定しています。来年度も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(編集: 渥美 & 西村)

カトマンドゥ 街角 アートギャラリー

来年は巳年 ネパールでは干支をあまり重視しませんが、蛇は雨乞いの儀式のときに出てくる動物、水辺に好んで住み、いずこからか水を引っ張ってくる生き物とされて、その力を崇拝している人もいます。

ネパールの視覚障害者を支える会 日本の事務局からのお知らせ

ネパールの視覚障がい者を支える会の事務局が柏市に移って半年以上すぎました。これまではバザーやお祭りの時に、ネパール製品を販売し、ネパールの視覚障がい者を支える会の運営資金をカンパしてきましたが、これからポコアポコの工房にもネパール製品を置くことにしました。

ヒマラヤ山脈原産の「岩塩」とても美味しいと評判です。ぜひ一度ご賞味ください。

千葉県柏市 松葉町 6-8-1 ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

Nepal Nepal Blind Support Association(NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-444-6234

日本の窓口: 千葉県柏市 松葉町 6-8-1 ポコアポコ作業所内(電)04-7136-0505

NBSA: HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費: 個人会員年間 6,000 円 / 協力会員年間 3,000 円/ 法人会員年間 15,000 円

振込先: 口座記号番号振込み番号 0190 - 7 - 762775 (ネパールの視覚障害者を支える会)

ネットニュースのご紹介

毎月 1 回配信の NBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュー、政治状況を掲載しています。ネパールへの渡航状況を知る上で便利。

ホームページ NBSA: <http://NBSA.sakura.ne.jp/> をご覧ください。

毎月の配信をご希望の方は直接 nbsa@mail.com.np にお申し込みください。